

(資料8)

三井家住宅主屋、奥座敷、南土蔵、北土蔵、表門（みついけじゅうたくしゅおく、おくざしき、みなみどぞう、きたどぞう、おもてもん）

員数：5件

所在地：知多郡武豊町字上ゲ2

所有者：個人

1 登録理由

三井家住宅主屋

丘陵上に宅地を構える元庄屋の住宅。「四つ建て」と呼ばれる、中央部6畳間の4本の太い柱を中心にして軸部を組む構造であり、家格の上昇に伴い、改築・増築を重ねて現在の規模となった。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

奥座敷

東側に床の間と棚を持つ4畳半の数寄屋風座敷があり、西側に次の間の6畳間が続き、さらに西に便所が付いた主屋と北土蔵を繋ぐ建物である。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

南土蔵

敷地南西隅の表門脇に立つ。棟札により建築年代が明らかとなっている土蔵の古例で、外壁全体が黒色のささら子下見板張で屋敷の表構えを整えている。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

北土蔵

敷地北西隅の高い石垣の上に築かれており、外壁全体をささら子下見板張とする。地域のランドマーク的存在となっている。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

表門

南土蔵の南に接続して建つ腕木門・脇に潜り戸を設ける。かつて祭礼に使用する山車を三井家が奉納したことから、門前に山車を曳く習わしが続いている。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

2 概要

主屋

木造平屋建、茅葺（鉄板借葺）、一部瓦葺、建築面積 128 m²、建設年代 江戸後期／江戸末期改修

奥座敷

木造平屋建、瓦葺、建築面積 22 m²、建設年代 明治前期

南土蔵

土蔵造2階建、瓦葺、建築面積 23 m²、建設年代 寛延3年(1750)

北土蔵

土蔵造 2階建、瓦葺、建築面積 30 m²、建設年代 明治8年

表門

木造、瓦葺、間口 1.8m、建設年代 明治後期

三井家住宅は、武豊町中部の丘陵地に位置する、上ゲの集落内に屋敷地を構えている。武雄神社の森の西側の小路を北へ進むと、皆満寺と相對して三井家住宅に至る。敷地西側には、皆満寺との間に小路があり、坂道となっている。この小路が、敷地北側では東側に回り込み、敷地北西部では精緻な石垣積みとしていて、皆満寺の総門と合わせて歴史的景観を形成している。

三井家は、代々傳左衛門を名乗る家柄であり、3代の時（延享4年（1747）～文化14年（1817））に長尾村の庄屋を勤めるようになり、名字御免になった。文書によると、明和6年（1769）には庄屋を勤めていたことが確認できる。以後幕末まで、代々、庄屋を勤めていたことが確認でき、家格が上昇していく中で、屋敷構えが拡大していったと考えられ、明治以後は有力な在郷資本家となり、現在の屋敷構えとなっている。

主屋は、敷地の中央やや北側に南面して建つ。木造、平屋建、平入¹、入母屋造²、茅葺³（鉄板被覆）であり、南・北面に瓦葺の下屋^{ひさし}庇をつける。主屋の中央部分の6畳間の四隅の柱が太く、鴨居には、和釘痕跡が各所に残っている。いわゆる「四つ建て」を中心にして上屋梁間を4尺拡大するなど、西谷北に改築、増築を重ねて現在の規模になったと思われる。

奥座敷は、主屋の北側に建ち、木造、平屋建、切妻造⁴、棧瓦葺⁵の座敷棟がある。梁間2間、桁行3間の規模で、東側に床の間と棚をもつ4畳半の数寄屋風⁶座敷があり、西側に次の間である6畳間が続く。縁を介して北西に便所がある。便所の東側の外壁は、内側から塗った荒壁が露出しており、杉皮を外壁に貼る意匠がなされている。かつてはこの座敷からあたりの景色が一望できたことから、来客をもてなす場であったという。

南土蔵は、敷地の南端、表門の北側に接続して建つ。寛延3年（1750）建築で、三井家住宅で確認できる最も古い建造物である。木造、2階建、平入、切妻造、棧瓦葺、梁間2間、桁行3間の土蔵である。北側に間口1間、出幅半間の前室状の下屋を持つ。外壁全体に黒色塗のささら子⁷下見板⁸張としている。室内は中塗り仕上げとし、登り梁⁹で2階の室空間を確保している。

北土蔵は、離れの北側、敷地の北西隅部の高い石垣の上に築かれている。木造、2階建、妻入、切妻造、棧瓦葺、梁間2間、桁行3間半であり、多くの什器が納められている。東側に寄棟¹⁰造の蔵前を設けて出入口としている。外壁は、南側以外は下見板張で、南側の2階部分はトタン張りとする。和釘が使用されている。

表門は、敷地の南端に西を正面として、南土蔵の南東隅に接続して建つ。開口部が1.8

mで、南脇に潜り戸を設ける。棧瓦葺の腕木門で、棟には鬼板を載せる。門両側の塀は下見板張、柱は10cm角材を使用し、自然木の優美さをあしらった梁をかけている。

- 1 ^{ひらいり}平入：日本の伝統建築において、建物屋根の「棟（むね）」に対して直角に切り下ろした側を「妻（つま）」、棟と並行する側を「平（ひら）」とした場合、建物の出入口がこの「平」にあるものをさす。
- 2 入母屋造：屋根の形式の一つで、上部を切妻とし、下部の四周に^{ひきし}庇や屋根を回した形態。
- 3 茅葺：茅（ススキやチガヤ）を材料にして葺いた家屋。
- 4 切妻造：屋根の形式の一つで、棟から両側に流れる面のみからなる、最も簡単な屋根構造。妻は、屋根の両端のこと。棟とは屋根面が交差する分水部分。
- 5 棧瓦葺：屋根の重量軽減策として、平瓦と丸瓦を一体化させた波型の棧瓦を使用した葺き方。
- 6 数寄屋風：語源の「数寄」とは、和歌や茶の湯、生け花など風流を好むことであり、好みに任せて作った家という意味。
- 7 ささら子：壁板などを張るときに、羽重（はがさね）にした下見板の押縁（おしぶち）として、縦に打ちつける細長い木材。裏側には下見板に合わせた刻みをつけ、板に密着するようにしてある。
- 8 下見板：外壁の下見に張る板。
- 9 登り梁：小屋組構造のなかで、桁から棟のほうに向かって斜めに渡される梁。
- 10 寄棟：屋根の形式の一つで、四方向に傾斜する屋根面。



三井家住宅主屋 南東から（あいちヘリテージ協議会提供）



主屋 仏間から (あいちヘリテージ協議会提供)



奥座敷 東から (あいちヘリテージ協議会提供)



奥座敷 床の間 北から (あいちヘリテージ協議会提供)



南土蔵 東から (あいちヘリテージ協議会提供)



北土蔵 北西から (あいちヘリテージ協議会提供)



表門 西から (あいちヘリテージ協議会提供)